

1 始めに

百田氏の「日本国記」を読んだ。500p という大書だが、興味深い書だった。

2 書籍紹介



著者 百田尚樹
発行所 幻冬舎
定価 本体 1 800 円 509p

第 1 章～第 13 章、終章

第 1 章 古代～大和政権誕生	第 8 章 明治の夜明け
第 2 章 飛鳥時代～平城京	第 9 章 世界に打って出る日本
第 3 章 平安時代	第 10 章 大正から昭和へ
第 4 章 鎌倉幕府～応仁の乱	第 11 章 大東亜戦争
第 5 章 戦国時代	第 12 章 敗戦と占領
第 6 章 江戸時代	第 13 章 日本の復興
第 7 章 幕末～明治維新	終章 平成

3 若干のコメント

- ①日本通史としては好個の書である。
- ②日本、日本人の素晴らしさを余すところなく述べて、日本を蘇らせて呉れる。
- ③所謂マルクス史観を排し、最新研究成果を紹介してくれる。
- ④国際社会の現実を忌憚なく述べて、その中で如何に翻弄されてきたかが見える。
- ⑤占領軍の日本弱体化政策、自虐史観、左翼偏向マスコミ・学术界等に対する批判
- ⑥小生の知らなかったことも幾つかあり、参考になった。
- ⑦百田氏の歴史観が明白に示されている。
- ⑧記紀を全否定するのではなく、そこから何を読み取るべきかという姿勢は妥当
- ⑨世界に蔓延る人種差別意識と日本の役割
- ⑨大東亜戦争の副次的効果（戦争目的そのものではなかったが）：アジア諸国の覚醒
- ⑩主要なトピックスを時系列的に説明して、全体の流れを俯瞰し得るよう考慮